

WIND ハンズオンセミナーに 2022 開催報告

WG 井平圭 齊藤良玄 能代究 櫻井愛美 玉城良 良川大晃
文責 WIND リクルート担当 井平圭

【はじめに】

WIND のリクルート行事の目玉企画として 2008 年から行ってきたハンズオンセミナー（2017 までサマーセミナーと呼称）であるが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で 2 年間中止を余技なくされていた。今回、感染状況が落ち着いていたため 3 年ぶりに開催を決定したが、例年行っていた宿泊型での開催は見送った。セミナー開催にあたり、十分なスペースの確保、マスク着用、手指消毒、換気を徹底するなどの感染対策を行った。

【参加者】

参加者の内訳は、初期研修医 2 年目 9 名、初期研修医 1 年目 5 名、医学部 6 年生 4 名、医学部 5 年生 4 名、計 22 名であった。

多くの関連施設から、チューターが 13 名参加してくれた。

チューター（敬省略）：松宮寛子、赤羽慧一郎、遠藤大介（以上、北海道大学）、藤枝聡子（天使）、山田竜太郎（北海道がんセンター）、金川明功（JCHO 北海道病院）、渡邊碧（江別市立）、佐藤元哉（江別市立）、五十嵐冬華（砂川市立）、高岡真佐人（苫小牧市立）、田畑智章（函館中央）、伏津建太郎（釧路赤十字）、松井優佑（帯広厚生）

【実習】

腹腔鏡、真皮縫合、胎児超音波、分娩介助、母体救命シミュレーションを行った。

参加者は 5 グループに分かれ、各実習を 30 分ずつ行った。

《腹腔鏡》

一人に一台ステーションを準備し実習を行った。

参加者のレベルに応じて、ビーズ移動や輪ゴムかけから開始した。

最終的にはほとんどの参加者が結紮手技の練習まで行った。（担当：井平）

《真皮縫合》

一人一豚皮を使用して埋没縫合をしてもらった。

学年的に初めての人には最初ゆっくり教え、経験者はより上達できるのを目標にしてもらった。最終的には初心者でもある程度きれいにできる様には成長していた。

経験者の中には後半、会陰モデルでマットレス縫合を経験してもらう人もいて最後まで楽しんで実習できた。（担当：櫻井）

《胎児超音波》

超音波コーナーでは胎児モデルに対して推定体重計測と 4D を行いました。

推定体重計測も 4D も全員が体験する事が出来ました。

4D コーナーでは赤ちゃんの顔がくっきり見え、手足の指まで見る事が出来ました。

4D を見るのは初めてという人が多く、感動してくれていました。(担当：能代)

《分娩》

分娩介助では通常の経膈分娩だけでなく、骨盤位の分娩、吸引分娩を行なった。

時間が余れば帝王切開の分娩や胎盤娩出を行なった。

全員声掛けなど緊張しながらも適切な介助ができていた。(担当：玉城)

《母体救命シミュレーション》

初めての試みとして母体心肺蘇生の講習を行なった。通常の成人心肺蘇生に加え、子宮の左方移動、死線期帝王切開という妊婦独自の蘇生法について知見を深めてもらった。

また、team として活動することの重要性を理解してもらった。(担当：齊藤)

【ポストアンケート】

グーグルフォームを用いてポストアンケートを無記名で行った。

回答者は 21 名 (回答率 95%)

1. セミナー全体の満足度、各実習の満足度を 10 段階で評価してもらった。

実習	腹腔鏡 手技	真皮縫合	胎児 超音波	分娩介助	シミュレ ーション	セミナー 全体
スコアの 平均	9.57	9.47	9.38	9.38	9.19	9.33

すべて 9 点以上の満足度であり、かつてないほど高いスコアであった。

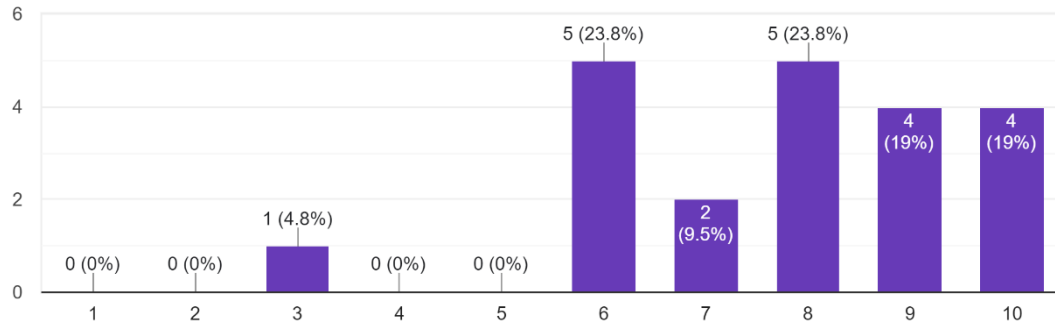
チューターによる熱心な関わりの成果だと考えられるが、参加者もハンズオンセミナーに飢えていた結果かもしれない。

2. 産婦人科専攻に対する考えについて

産婦人科専攻をどのように考えているかを聞いた。(1. 産婦人科は専攻しない、10. 産婦人科を専攻する)

現時点で産婦人科専攻をどのようにお考えでしょうか？

21件の回答



産婦人科専攻を前向きに考えている参加者が大変多いことが明らかになった。

引き続き興味を持ち続けてもらえるような関わりを続けていきたい。

3. 参加者からの声

「新たな知り合いも増え、とても充実した時間を過ごせました、ありがとうございました！」

「時間で区切って次のブースに進む形式がとてもよかったです。」

「ラフな雰囲気に参加できましたし、各ブースで丁寧にレクチャーしていただいたので非常に勉強になりました。貴重な機会を与えていただきありがとうございました。」

「とても勉強になりました。ありがとうございました。」

「非常に充実した時間を過ごせました。」

「個人的には最もやりがいのある科だと思っているので、エコーでの「性別や顔を見てあげるとお母さんは喜ぶ」といった臨床の話はとても好きでした。もっとそういう話が聞けると嬉しかったです。本セミナーの満足度は非常に高かったです。来年も参加させていただきたいです。貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。」

「実習ではなかなか聞けず終わってしまった産婦人科医の私生活やキャリア、給料の話などがたくさん先生方からお聞きすることができ、自分の将来の参考になりました。とてもアットホームな空間で、頼りになる先生方がたくさんいらっしゃる科を知ることができ、北大産婦人科の良さをさらにすることができました。ありがとうございました。」

「各ブース大変勉強になり、懇親会も先生方の率直なお話が沢山聞けました。ありがとうございました。」

「産婦人科にずっと興味はあったものの、自分に適性があるか計りかねていたので、とても貴重な機会になりました。また、様々な病院で初期研修する先輩方からお話を聞くことができ、新鮮でした。ありがとうございました。」

「先生方が丁寧に教えてくださり、非常に勉強になりました。」

「もっと時間をかけていろいろな手技がしてみたかったです。先生方の雰囲気がとても和やかで素敵だと思いました。」

「とても楽しかったです。北海道に縁もゆかりもなかった私ですが、連絡先を交換させていただくなど繋がりができたことが大きいです。」

「貴重なお時間をありがとうございました！」

「楽しかったが、腹腔鏡手技・真皮縫合などはもっと長くやれるとなお良かった。」

「まず、今回参加させていただきありがとうございました。実際にやってみたり、研修医の先生方ともたくさんお話しできて楽しかったです。腹腔鏡の縫合が全然できなかったので、次はもっと上手くできるようになりたいです。」

「まだ何科になるか決めていませんが、産婦人科良いなと思っているのでまたこのような機会があればぜひ参加したいです。」

「お弁当やお菓子もありがとうございました。美味しかったです！」

「産婦人科の魅力について伝わりました。ありがとうございました。」

「セミナーの内容自体もとても面白くて勉強になったのですが、自分が5年生という立場で研修医1.2年目の先生たちと同じグループで活動できて、研修医の先生たちの知識の豊富さや母体救命シミュレーションでの行動の速さなど、数年後の自分の目指すべき像がつかめて、モチベーションが上がってとても良かったです。お弁当美味しかったです、ありがとうございました。」

「手技が経験できたことはもちろんのこと、直にお話を伺えたことがプラスになりました。」

「実践的なことを教えていただき、大変参考になりました。ありがとうございました。」

「大変貴重な経験になりました。ありがとうございました。」

「色々なシミュレーターを通して産婦人科の手技に触れさせていただき勉強になりました。」

【まとめ】

3年ぶりのハンズオンセミナーは、WGメンバーとチューターのお陰で、また積極的に取り組んでくれた参加者のおかげで、大変盛況であった。

ハンズオンでないと伝えられない「熱」は十分伝わったのではないかと感じる。

引き続き、内容をブラッシュアップしながら継続していきたい。

また、地方にいる研修医は参加が難しい場合もあるため、webでの企画も並行して行ってきたい。